

子育て支援について

(父親参画、妊婦の地域参加)

主な質問内容

- 1、母親支援だけでなく父親支援の視点で、ネウボラを参考とすべきでは。
- 2、妊婦の地域参加の機会をもっと増やすべきでは。

ネウボラとは

- 妊娠・出産から6才まで（基本的に）家族を支援するフィンランドの体制。
- 特徴
 - 妊娠出産、子育てまで常に同じネウボラおばさん（保健師）が相談にのり家族全体を支援する、切れ目のない支援。
 - 家族支援のため、ネウボラおばさんは家族みんなと面談などでかかわっていく。

児童虐待での検挙人数は、、、 父親が圧倒的に多い

6-1-6-3表

児童虐待に係る事件 検挙人員（被害者と加害者の関係別，罪名別）

(平成27年)

加害者	総数	殺人	傷害	傷害致死	暴行	重過失致死傷	強姦	強 わいせつ 制 わいせつ	保護責任者遺棄	逮 監	捕 禁	その他
総数	811	42	362	14	239	-	22	29	5	17	95	
父親等	614	7	269	10	190	-	22	29	2	9	86	
実父	336	7	147	7	128	-	5	3	1	5	40	
養父・継父	152	-	66	2	27	-	11	12	-	3	33	
母親の内縁の夫	99	4	47	-	26	-	5	10	-	1	10	
その他(男性)	27	3	9	1	9	-	1	4	1	-	3	
母親等	197	35	93	4	49	-	-	-	3	8	9	
実母	180	34	82	4	47	-	-	-	3	7	7	
養母・継母	6	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-	
父親の内縁の妻	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	
その他(女性)	7	1	3	-	1	-	-	-	-	1	1	

3倍!

注 1 警察庁生活安全局の資料による。

2 無理心中，出産直後の殺人及び保護責任者遺棄を含まない。

3 加害者の「その他」は，祖父母，伯（叔）父母，父母の友人・知人等で保護者と認められる者である。

4 罪名の「その他」は，脅迫，未成年者略取並びに暴力行為等処罰法，児童買春・児童ポルノ禁止法，児童福祉法及び青少年保護育成条例の各違反である。

行政は、母親ばかりでなく、
父親とももっと積極的にかかわりを持つべきではないか

町田市の目標と現状は？



基本目標
II

子どもが安らいでいる家族があり、家族が地域とつながっている

目指す姿 1 親子の健やかな子育て・子育てを切れ目なく支える

子どもたち一人ひとりが人間としてかけがえのない存在であることを実感しながら、家族に生まれ、家庭や社会の一員として人との関係を築くことができるようになるためには、身近な大人との関係で安心できることが第一歩となります。そして、大人も子どもともに育ち合うことが重要です。

家庭の状況がさまざまに多様化してきている中、妊娠・出産から乳幼児期を通じて母子の健康確保や育児不安の解消を図る相談・支援体制の更なる充実が求められています。

これら、相談支援体制の充実や保育環境の整備、育児支援事業の推進等により、子どもの心豊かな成長と親になる力を身につけるための切れ目のない支援を目指します。



切れ目のない支援と言う点は、
すでにネウボラ的な発想を持ち
取り組んでいる

男性の子育て参画について
も課題としている



基本施策（3） 男女共同の子育てを進める

現状と課題

喜びや楽しみをもって子育てするためには、社会全体で子育てを支援することはもとより、子育ての場の基本である家庭において、男女が互いによきパートナーとして、家事・育児をともに担い合うことが望まれます。

しかし、保護者に対するアンケート調査によると、子どもの身の回りの世話などを行っている人が、「母親」の割合は8割となっており、依然として女性が家事・育児を担う状況がうかがえます。

男女共同の子育ては、男女がともに人生の各段階に応じて多様な働き方を選択でき、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）が実現される社会を目指すことが必要です。併せて、家庭内においても男女が担う家事・育児等のバランスが大切です。

施策の方向性

これまで育児や家庭への参画が少なかった男性が積極的に関わり、ともに子育てを担うよう男女共同の子育てを推進して行きます。また、併せて仕事と家庭の両立推進企業の表彰等、ワーク・ライフ・バランスの推進を図ります。

町田市の目標と現状は？



「男女共同の子育てを進める」としながらも、父親の両親学級の参加人数目標はかなり低く、父親向けの育児講座の開催もそれほど多いようには思えない。

取組	内容					担当課
両親学級*	初めての子どもを妊娠・出産し子育てを始めるにあたり、父親が母親の育児支援ができるように、父親の参加を促します。					保健予防課
指標	父親の参加人数（人）					
目標	現状(2014年度)	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
	281	290	300	310	320	330

*2015年度に「母親学級」から「両親学級」に名称変更。現状値は「母親学級」の実績

全体の参加目標はおよそ1200人前後

取組	内容					担当課
子どもセンター事業	父親向けの育児講座等を通じて子育ての楽しみを味わい、育児参加を促します。					児童青少年課
指標	実施回数（回）					
目標	現状(2014年度)	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
	2	6	8	16	16	24

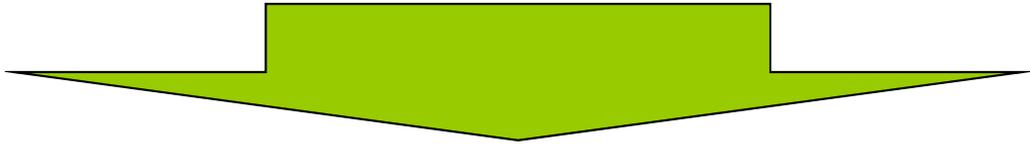
両親学級について提案

- ① パパとママが別の日程でそれぞれ参加できるようにしたらどうか。(現状、それぞれが別日に参加する事ができない)
- ② 男性のみでの参加もOK と言うのが分かりにくく、「パパにも来てほしい」と言う市の積極的なアピールが無い。「パパも行くことが普通」と思えるような文言を入れたらどうか。
- ③ パパの参加者の目標値が低い。ママと同じ人数参加してくれるのを目標とするのが正しいのではないか。

妊娠中のママの地域参加の必要性

- 産後に地域の子育てひろばや子どもセンターなどに初めてお出かけするのは、結構勇気がいる。
- どんなところかも分からなかった為、赤ちゃんが良く動くようになるまでは必要性を感じなくて行かなかった。

などの理由で、デビューが遅くなるママも多い。



妊娠中に一度でも行っておけば、産後にもすぐに行こうと思える。妊娠中に知り合った地域のママに産後に再会すると、仲良くなりやすく産後すぐの孤独になりがちな時期に救いとなる事も多い。

そこで、提案

- プレママやプレパパ専用のカレンダーなどがHP上に無い。作成し、分かりやすいところにアップするべきではないか(あったとしても私には見つけられなかった。)
- 土日は子育てひろばの開催が少なく、働くプレママはイベントに行くのが難しい。土日にプレママ向けの子育てひろばを開催する保育園には別途補助金を出したらどうか。
- 社会福祉協議会の子育てサロンも、各種イベント案内と一緒に掲載してはどうか。

